

# 全国青年部第24回定期総会

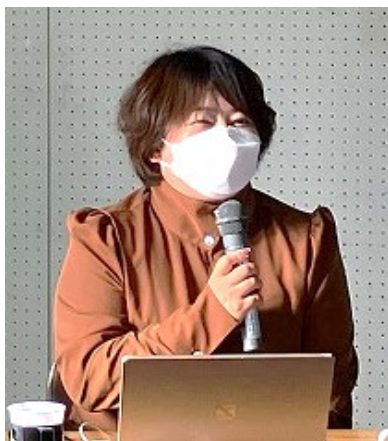
集え青年！みんなで語ろう、未来を作ろう！若者の要求実現へ  
 ～憲法が輝く 強くあたたかい社会を掴み取れ Let's take ACTION! いけいけ全国青年部！～



建交労全国青年部は2021年12月11日(日)、第24回定期総会を開催し、会場とオンライン合わせて18名の青年が参加しました。前半は賃金学習会、後半は総会を行い、2022年度の方針と体制を確立しました。閉会後は交流会を行い、全国から集まった青年たちとのつながりを深め合いました。

賃金・最低賃金を知ろう！

## 賃金学習会



全労連青年部書記長

いなほ みなこ  
 稲葉 美奈子さん

総会に先立ち、全労連青年部書記長の稲葉美奈子さんを講師にお迎えし、賃金・最低賃金についての学習会を行いました。

まず全労連青年部で今年とりくんだ「はたらく青年の生活実態アンケート」の結果をもとに、全国の青年がゆとりのない賃金で生活している実態が報告されました。物価高の影響により各国が最低賃金を上げている中、日本だけ賃金さがり続ける現状についても学び、海外の方からの「働く場所として、賃金の低い日本は候補にならない」との声も紹介されました。

また、「調査の結果、都市部でも地方でも生活費はほとんど変わらないが、日本の最低賃金は全国一律ではない。最賃が低い地域から都市部へと人口が流出し、都道府県別大学進学率は最賃額に比例する。最低賃金は私たちの暮らしに密接に関わっている。地域間格差はおかしい」とし、「最賃近傍で働く人がこの11年で倍増している。各国では賃上げを求めるデモやストライキをうち、世論を作っている。労働組合に結集するわたしたちが、声をかけ運動を広げていくことが重要」と、団結することの大切さを述べられました。

続く分散会では3つのグループに分かれ、学習会を受けての感想や、職場の実態などの意見交流を行いました。「最低賃金が全国一律だったら、働く選択肢が広がる」「不公平の原因は自己責任じゃない」「地域によって賃金の格差があるのは問題」「賃金が上がれば、(自己紹介時に発表した、好きな食べ物である)うなぎをたくさん食べられるよね!」など、活発な交流が行われました。

午後からは総会を行いました。鈴木互部長のあいさつに始まり、武田喜成事務局長から経過報告と運動方針の提案がありました。

その後の全体討論では、各地の青年部のとりくみや職場の状況報告などがされました。22春闘で青年独自の要求を出した神田支部青年婦人部部長の吉田亮太さんは、「新正社員の年齢給の底上げなど、要求は勝ち取れなかったが、独自に実施した青年対象のアンケートの回答を生かして今後の春闘要求にしていく」と報告しました。また、コロナ禍で青年が集まる機会が制限される中、「臨時特例事業で9,000~11,000円の賃上げが実現した」「仲間が増員した」「青年の輪を広げるため、バーベキューなどを企画した」との嬉しい報告もありました。

提案された議案、会計、役員について全体の拍手で可決されました。スローガンのもと、今年も楽しく青年部を盛り上げていきましょう!

## 発言された参加者の皆さま



## 新役員紹介



鈴木互部長より (写真右から2人目)  
5年ぶりに、委員に3人の新しい仲間を迎えることができました。新体制のもと、また活動ががんばりますのでよろしくお願いします!

### 2022年度新役員

■部長	■事務局長
鈴木 互	武田 喜成
■副部長	■委員
秋山 哉保	内田 知也 (新)
鈴木 美夏	神原 一行 (新)
山内 理恵	近藤 結女 (新)

### 参加者のみなさんの感想より

- ・海外と比較してみても日本の賃金は酷い。せめて全国の最低賃金は統一すべきだと思います。
- ・最低賃金 1,500円は夢見額じゃなくて、人たるに必要な額という事がよくわかりました。一人じゃ無理でも団結すれば変えられる、「よりよく変えていくことは“楽しい”」という気持ちを届けていきたい。
- ・(賃金・最賃について) あまり身近に感じられていませんでしたが、これから考えるのにいい機会だったなと感じました。各地域での活動も聞くことができてよかったです。
- ・アメリカのように、20~40代と一斉に声をあげてとりくめば、変えることはできるのではないかと思った学習会でした。
- ・諸外国の福利厚生面について実態が気になります。
- ・このような交流の場に積極的に参加したいです。
- ・3年ぶりに会うことができてうれしかったです!

青年部ニュースは、SNSでの閲覧が便利です! のぞいてみてください☺️

